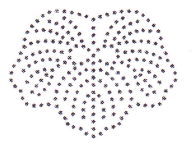


「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



りゅうま伝

42号
2023年5月26日
高野 竜馬

「モッケイ」

今月から母と同居を始めた高野です。ある程度、年を重ねてくると、親の介護は切実な問題になってきますね。我が家は、まだ子供たちも小学生と中学生、子育て中の介護ですからなおさらです。「お父さんは、もう亡くなったね？」
「うん、23年前(笑)」
父が亡くなった時、走り去ろうとする霊柩車を追っかけ膝から倒れて泣きじゃくる母はまるでアカデミー賞ものだったのに、こっぴつ会話が数分ごとに繰り返されるのは…。トイレでだって寝室の横にあるのに迷子になり、水の流す方も毎回尋ねられる始末。

明け方3時頃に1回目覚めてトイレを探し始めるので、毎朝動行します。

実はこの春まで一人暮らしだった母。幸いなことに3人の子供の週一サポートで問題なく暮らせていたのですが、認知症が進行し、昨年末にケアマネからガスを止められると、一層、症状もひどくなりました。そこで今月から勇気をもって同居することにしたのです。(ショートステイもかなり利用しながら。)

それにしても家内は立派です。何を何回言われても見事に笑顔でかわすさまに感心します。私はというと、親が衰えるのが見るに堪えず、ついつい感情的になってしまいます。

「肉身じゃないからある意味、客観的に対処できるのよ」とは言いますが、それにしてもスゴイ。そんな家内を見ていて「モッケイ」という言葉思い出しました。昭和の名横綱、双葉山関が69連勝で止まった時、「ワレイマダモッケイタリエズ」と電報を打ったという、あの木鶏です。関鶏を育てる名人が王様の質問に答える故事が語源です。鶏の訓練から10日たて王様が仕上りを尋ねると、「空威張りして闘争心があるからいけません。」

更に10日、10日と待ち続け、ついに他の鶏の声を聞いても全く動かない鶏になります。すると名人は、「もう良いでしょう。他の鶏が鳴いても全く相手にしません。まるで木鶏のように泰然自若としています。その徳の前に、かなう鶏はいないでしょう」と答えたそうです。



幼い頃、自分たち兄妹が替えてもらったオムツの枚数に比べればまだ教日。正直、いつまで我が家で母を見てあげられるかもわかりませんが、家内が言うように「一日、一日クリア」していく以外にありません。先を考えず木鶏を目指しなさい。母の介護は、そういうことを、私に教えようとしているのかも知れません。

たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> x-11fp.takano@gmail.com